

A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎

A 群溶血性連鎖球菌により起こる急性咽頭炎です。学童期の小児に最も多く多くみられ、3歳以下や成人では余り見られません。冬季と春から初夏にかけて比較的多くなりますが、インフルエンザや感染性胃腸炎のようなはっきりとした流行時期はありません。

A 群溶血性連鎖球菌は、咽頭炎以外にも多彩な臨床症状を引き起こす事が知られています。膿痂疹(おでき)、中耳炎、肺炎、関節炎、髄膜炎、骨髄炎、猩紅熱、等です。

【病原体】

病名から分かるように、A 群溶血性連鎖球菌です。「A 群」とは、細菌の表面の抗原による分類名です。「溶血性」は、血液寒天培地(羊などの血液を加えた培地)で培養すると、コロニー(菌の固まり)の周りの血液を溶かす性質を示しています。また顕微鏡で見ると、球形の細菌が鎖のように連なって見えるので「連鎖球菌」と言われます。

【臨床症状】

2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱・全身倦怠感・咽頭痛(のどの痛み)で発症します。時に嘔吐を伴います。莓舌(舌にできる莓のような赤いぶつぶつ)が見られる事もあります。合併症として、化膿性疾患の肺炎・髄膜炎・敗血症、非化膿性疾患のリウマチ熱・急性糸球体腎炎を起こす事があります。また菌の毒素により猩紅熱が起こると、顔や体に粟粒大の皮疹が多数出現します。

【治療】

抗生物質が有効で、ペニシリン系薬剤が第1選択薬です。ペニシリンアレルギーで使用できない場合は、セファロスポリンやマクロライド系薬剤が使用されます。但し、何れの薬剤もリウマチ熱や急性糸球体腎炎の予防のために、10日以上投与する事が必要とされています。合併症を予防するために、医師の指示通りにきちんと服薬する事が大切です。

【予防】 飛沫感染・接触感染予防が主体となります。

- ① 患者との濃厚接触を避ける事が第一です。
- ② 日常のうがい・手洗いの励行も有効です。

ご意見・ご質問などは石巻保健所健康対策班までお願いします。 電話：0225-95-1430 FAX：0225-94-7104
もっと詳しく知りたい場合は、保健環境センターHP(<http://www.pref.miyagi.jp/hokans/>)を参照願います。